

令和7年度

学校自己評価表（計画）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	教育目標である「真理を探究し人間を形成する」「技術を高め創意工夫する」の達成のため、本校は工業技術者や地域の発展に貢献する職業人を育成している。本校は、教育活動を通じて多くの知識を学び、上級学校での学習面や各職場でその学びを生かし、社会に有為な人材を育成することを目標とする。そして、学校－家庭－地域の連携を一層推進するとともに、さらなる教育活動の充実を図る。 (スクールミッション) ・地域の人々と連携した活動をとおして感動し、未来を切り拓く探究的思考力を育成する。 ・部活動や社会活動をとおし、他者の価値観を尊重する心豊かな人間性を育成する。 ・工業に関する知識・技術を生かし、地域産業に貢献する職業人を育成する。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①自ら学び、考え、判断する探究的思考力を持った人材を育成します。 ②多様性を受け入れ、他者の価値観を尊重できる心豊かな人材を育成します。 ③地域理解に努め、地域産業に貢献する人材を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①主体的・対話的で深い学びを取り入れ、思考力、判断力、表現力を育成します。 ②学校行事や部活動を通して、相互理解、責任感、連帯感を育成します。 ③地域産業界と連携したものづくり教育を推進します。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①工業分野に興味・関心を有し、ものづくりが好きな生徒。 ②協調性を持ち、他者を思いやることのできる生徒 ③向上心を持ち、自主的、意欲的に取り組むことのできる生徒。	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
【成果】 ①教職員全体の組織的な取組みにより、国公立大学も含めて生徒の進路希望達成を補佐することができた。 ②各種学校行事や部活動について、生徒が主体的に活動することができた。 【課題】 ①指導と評価の一体化を進め、生徒の主体的で対話的な深い学びを引き出す。 ②いじめ防止対策委員会及び生活支援委員会等の機動性を高める。	探究的思考力を育てる。 職業人として求められる探究的思考力を育むため、地域と連携した本校独自の実践的な工業教育を推進する。	○課題研究を通して探究的思考力を育成する。 ○職業人に求められる倫理観を養い、創造的に解決する力を育成する。
	工業に関する学習成果を生かして地域産業に貢献する教育活動を推進する。 地域に貢献する意識を高め、上総GAKを通して豊かな心を育てる。 G：元気に、頑張る、ゴールを目指す上総 A：明るい、挨拶、愛情の上総 K：協力、感謝、貢献の上総	○地域・産業界、大学との連携による実践的な学習活動や体験活動を通して、地域・社会の発展を担う職業人として、身につけるべき資質と能力を育成する。
	新学習指導要領の実施。 一人一台端末や統合型校務支援システムを活用し、効率的かつ効果的な学習を推進する。	○ICTの活用により生徒の学習を支援する。一人一台端末の有効的な活用により主体的で対話的、深い学びを引き出す。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
教務 授業や学習環境を整え、学力の向上を図るとともに、情報や視聴覚の環境を充実させる。	授業や学習環境を充実させ学力の向上を図る。	シラバスを整備し、計画的・継続的な授業の展開を図る。			
		学習のための用具、教材を整備し学習環境を整える。			
		I C T機器およびタブレット端末を、学習活動等に活用する。			
	適切な年間行事計画を編成する。	適切に年間の授業時数を確保する。			
		部活動・資格取得試験等に配慮し、学校行事を適切に配置する。			
	進路実現を目指したコース選択・科目選択を実現する。	生徒の将来の進路を見据えたコース選択・科目選択ができるように、適切なガイダンスを実施する。			
		各教科及び学年会と連携を取り、円滑なコース選択を実現する。			
		生徒の希望を尊重しつつ、実施可能な選択科目を調整する。			
	情報教育環境、視聴覚教材・機材の充実を図る。	生徒・職員がネットワークやコンピュータを円滑に利用できる校内体制を整備する。			
		授業・学校行事等における、視聴覚教育の重要性を認識し、高水準の教材・機材等の充実を図る。			
	情報を発信する（生徒、保護者、中学校）。	W e b ページを活用し、保護者や生徒に情報を発信する。			
		学校案内を年1回作成し、配付する。			
		中学生および保護者を対象に学校見学会を実施する。			
進路指導（進学） 生徒・保護者の希望する進学先への進学推進	高校生として必要な学力を身に付けさせる。	1年生や保護者に対し、進路意識啓発のための講話を実施し、進路実現のためには基礎的な学力が必要であることを説明する。			
		日常の生活指導を通し、日ごろの学習習慣の重要性を意識させる。			
	自己実現のための進路意識を啓発する。	生徒、保護者を対象に進路説明会、進路講話、大学見学会を実施する。			
		進路体験報告会を開き、合格体験プロフィール集を発行する。			
		基礎学力テストを実施し、年間を通して生徒全員の学習意欲を高める。			
		年数回の模試を実施し、各自の学力を認識させ、学習意欲を高める。			
		3年生の1学期中に進学希望先が決定するように指導する。			
		進学だよりを定期的に発行して、情報を多く伝える。			
		受験報告書を必ず提出させ、次年度以降の指導に資する。			
		長期休業中および2学期以降の進学補習を効果的なものにする。			
		大学進学希望者には積極的に大学入学共通テストを受験させる。			
	全職員の意識を向上させ、適切な進路指導をする。	小論文や面接に関する生徒講習会に参加する職員を増やす。			
		担任団との会議、各教科への教科指導・面接指導の依頼などを通して、校内各分掌との連携がとれた指導を行う。			
		全職員で面接、小論文指導にあたる。			
進路指導（就職） 生徒・保	社会人として必要な自覚と責任感を持たせる。	入学式当日に保護者を対象とした進路説明を行う。3年生の進路行事（6月）では、生徒・保護者対象進路説明会を実施する。			
		2年生を対象に進路説明会を実施する。			

護者の希望する就職先への就職推進		「進路のしおり」（冊子）を作成し指導する。			
		工業各科で実施するインターンシップ・デュアルシステムの受入企業の開拓を必要に応じ行う。			
	全職員と情報を共有し就職試験に向け適切な進路指導を行う。	全職員を対象に職員会議等を通じて進路状況の説明をする。			
		進学係と連携し各学年を対象に進路指導を実施する。			
		3学年の担任や各科職員と連携し、進路相談や面接指導を実施する。			
	本校での学習内容が活かせる就職の実現に向け指導する。	1年生がコースを選択する時期から、各コースで学習する専門知識を活かせる職業選択ができるように指導する。			
生徒指導 基本的な生活態度を身につけさせ、社会の一員としてルールを遵守する態度を育成する。	規律正しい生活習慣を確立できるように指導し、社会性を身につけさせる。	定期的、日常的に服装・身だしなみ指導を全職員で行い、規範意識を高めるとともに、保護者との連携を図りながら社会の一員としてのルールやマナーを遵守するよう働きかける。			
		礼儀正しく、さわやかな挨拶が校風となるよう、規律正しい生活習慣の確立を図る。			
		携帯・スマホ安全教室や集会等の指導で、携帯電話やスマートフォンの正しい使用法を身につけさせる。			
	交通安全指導を適切に行い、交通ルール・マナーを身につけさせる。	交通講話や原付バイク安全運転実技講習会を実施し、交通ルールの遵守、登下校時のマナー等、交通安全教育の充実を図る。			
生徒会 生徒会活動の充実・主体的に参加できる人材育成する。	生徒会執行部員や各クラス役員だけでなく、全校生徒一人ひとりが主体的に行事等に参加するよう指導する。	行事の企画や運営を通し、生徒会執行部員のリーダーシップを養う。			
		体育祭や球技大会を通し、全校生徒の体力の向上を図り、ルールやマナーの大切さを学ばせる。			
		文化祭を通し、全校生徒の学習・製作活動の成果を保護者や地域に広く発信する。			
		部活動を通し、全校生徒の興味・関心や技術を高め、心身の成長を図る。			
保健防災 体力の向上と健全な心身の育成を図り、物事を継続的に行う能力を育成	図書館を利用しやすく整備し、読書意欲の向上を図る。	図書館の利用促進のため、広報活動の充実を図る。			
		委員会活動を活発にし、利用しやすい図書館にする。			
	自己の健康と安全に関心を持ち、心身の健康管理ができる生徒の育成を目指す。	定期健康診断を行い、適切な健康管理に努める。			
		救急処置および健康相談を随時行う。			
		保健室便りを発行し、健康に関する意識の高揚を図る。			
		各学年別に保健講話を実施し、自己の健康への意識を高める。			
		生徒の健康管理のため、自動販売機の内容を精査する。			
	進んで清掃・ゴミの分別に取り	清掃に自ら進んで取り組ませる。ゴミを分別して捨てる。			
		校地内におけるゴミの点検を行う。			

する。	組み、校内美化に努める生徒の育成を目指す。	教室等のワックスがけを行う（年１回）。			
		重点目標を設定した大清掃を行う。（毎学期、年６回）			
		大清掃時に、清掃用具とモップ交換を行う（１、２学期）。			
		保健委員により、主に行事後清掃・美化活動を行う。			
	事故や震災時、感染症対策において、安全な行動が取れるように指導する。	防災避難訓練を行う。（年１回）			
		校内の危険箇所の点検を行う。			
		インフルエンザやコロナウイルス等の感染症予防の指導を徹底する。			
	渉外 P T Aの活性化	保護者と学校の連携を深め、P T A活動を円滑に進める。	P T A役員会、P T A総会を実施する。		
			朝のあいさつ運動を実施する。		
			体育祭給水活動を実施する。		
			花いっぱい活動と散水メンテナンスを実施する。		
			P T Aだより（年間２回）を発行する。		
1 学年 基本的な生活習慣を身に付けさせる。	基本的生活習慣と規範意識を身に付けさせる。	無断欠席・遅刻・早退をしないように指導する。			
		身の回りの整理整頓に努め、貴重品等、自分の持ち物の管理を徹底するように指導する。			
		高校生らしい身だしなみ、挨拶をするように指導する。			
	基礎学力を養成する。	授業に集中させる。家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、長期休業には課題等を与えて基礎学力の伸長をはかる。			
		学力の把握に努め、学習が遅れがちな生徒への個別指導を行う。			
	適切なコース選択ができるように指導する。	進路説明会を実施し、進路に対する自覚を促す。			
		コース選択説明会を実施し、適切な選択が出来るように指導する。			
		生徒との面談、保護者面談を充分に行い、生徒の希望・適性・進路希望に沿ったコース選択が出来るように指導する。			
	2 学年 進路の目標を明確にする。	基本的生活習慣を確立する。	高校生にふさわしい身だしなみを心がけるよう指導する。		
			明るい挨拶の励行を指導し、他者への思いやりの心を育てる。		
			規範意識の向上を図り、責任ある行動がとれるよう指導する。		
		充実した学校生活を送る。	授業に集中し、意欲的・継続的に学習に取り組むよう指導する。		
			部活動や学校行事等へ積極的に参加するよう指導する。		
			修学旅行を通じて生徒間の親睦を図り、学年・学級の集団意識を高める。		
	進路の目標を明確にする。	進学・就職情報を十分に提供し、生徒自らが進路目標達成に向けて取り組めるよう指導・助言する。			
3 学年	最高学年としての生活を心がけ	自己を律し、周囲へ配慮のある行動が取れるよう指導する。			
		学校行事等で中心となって活動できるよう指導・助言する。			
		充実した学校生活となるように学習、部活動、学校行事に全力で取			

進路希望	る。	り組むことができるよう指導する。			
の実現を	進路希望の実現	生徒が自身の進路目標を明確化できるように指導・助言する。			
目指す。	に向けて最大限	進路情報の提供を十分行い、生徒・保護者と意志の疎通を図る。			
	の努力をする。	進路指導部と連携を図り、個に応じた進路指導を行うようにする。			
	将来を見据えた	主体的に学習に取り組めるよう指導する。			
	学習に取り組む	自らの課題に対し、自主的・積極的に課題に取り組めるよう指導する。			
	。				
＜機械創造工学＞	実践的な技術者	実験実習、製図等の基礎科目を重点的に指導し、知識と技術の習得に努める。			
機械	や技能士を目指				
エネルギー	す生徒の夢の実	レポートや課題等を期限内に提出させ、実習時の正しい服装や態度、安全に対する心構えについて指導する。			
メカトロニクス	現をサポートする。	担任と連携して、生徒の進路実現に向けた適切な指導を行う。			
		資格取得や技能検定、技術系の大会、コンテストへの積極的な参加を促す。			
＜電気情報＞		各種資格取得を目標に意識付けや、技術技能の向上のために支援を行う。			
電気		ものづくりコンテスト等への参加推進、指導の充実を図る。			
エネルギー		電気情報に興味を持たせ技術者への道を支援。基礎力向上を図る。			
情報技術					
＜建築環境＞		建築に関する基礎基本を重視した「分かる授業」を実践する。			
建築		地域で活躍する建築技術者の次世代を担う者としての自覚を育てる。			
システム		資格検定試験により多くの生徒を参加させるとともに、合格率の向上を目指す。			
建築インテリア		インターンシップ、デュアルシステムを実施し生徒の職業観、勤労観を育成する。			
		地域の教育資源を活用し、地域社会等と連携を強めながら取り組みの内容や成果を積極的に情報発信する。			
＜土木防災＞		実験実習や課題研究から得られた数値よりグラフや表を作成し考察としてまとめあげることができる。また成果を発表することができるように指導を行う。			
都市工学		地域企業と連携し現場見学会（２回/年）や出前授業から建設業に対する職業理解を深めるとともに新４Ｋや建設DXなどの魅力を生徒および保護者に発信する。			
防災工学		建設業を担うものとして必須となる２級土木施工管理技士補の合格率を60%以上とし合格率の維持向上を目標とする。また個々の適正			

		に合わせた資格試験を薦める。			
成果			総合評価		